



○ 競争

入学式の式辞で私は「皆さんの周りには人たちは何らかの縁があつてクラスメートになりました。協力し合い、競争し合つて互いに伸びていきましょう。」ということをお話しました。今回は「競争」について記述してみます。

「競争」という言葉から皆さんはどのようなことを想像されるでしょうか？私が一番に思い浮かべたのは小学校時代の「徒競走」です。背の順に 4 人一組になり 80m くらいを走ります。私が通った学校は小規模校でしたので毎年 4 人のメンバーは同じです。一人足の速い子がいたので毎年 2 着でした。一度も 1 着になれないので悔しい思いをしていたことを思い出します。少しは違うメンバーで走ってみたいとずっと思っていました。ある年の運動会、いつものようにその速い子が私の前を走っていきます。「今年も 1 番は無理か…」と思ったとき、その子がこけちゃいました。幸運にもその競争には勝ちましたが、心の中では喜ばず複雑な気持ちになったことを思い出します。

さて、調理・製菓での競争とはどんな場面があるでしょう？入学してひと月程度の 1 年生の今はダイコンの桂むきや梅ニンジンなど基礎の練習をひたすら行っています。それまでの生活経験は人それぞれ多少の違いがあるでしょうし、器用不器用等の違いもあるでしょう。そのため技術の差は当然見えてきます。「クラスの中では自分が一番上手だな。」とか「みんなのようにうまくできない。」とかの思いが交錯します。これは他人と自分を比べる競争でしょうか。こういった競争は低いレベルでの勝ち負けだと思ひます。

私は学生の皆さんには高いレベルに向かってともに到達しようという競争をして欲しいと思うのです。低いレベルでの勝ち負けについては、当然器用な人が勝ちます。器用は貧乏だということも以前記述しました。そのような競争は双方がその低いレベルで止まってしまいます。

世界陸上などの 100m 走で 10 秒を切ろうかという高いレベルの人たちが勝ち負けを競うことはお互いが刺激し合いともに伸びていきますので、そういった競争は別次元で大いに意義があると思ひます。

皆さんは今どのような競争をしていますか？



○ 自校自賛

KC 校では先日のオープンキャンパスでウイークエンドシトロン（レモン風味のバターケーキ）を作りました。ちょうど高校は今中間テスト中というところも多いのでしょうか。予定よりも参加者数は少なかったのですが、参加する側からすればほぼマンツーマンですから内容がよくわかったのではないのでしょうか。また、お互い会話をすれば学校のふんいきも感じ取ってもらえると思ひます。学校側からすれば多くの参加者を望むところです。友達を連れてきてくれたり、学校に帰って内容を伝えたりしてくれるとうれしいですね。今回の学生のお手伝いは製菓衛生師科の 2 名（1 名は調理師科からの W ライセンス再入学です。）K さんと W さんでした。

